

卒業生からのメッセージ



なつみ
松本 菜摘美さん
128期卒

一般行政職(学芸員枠)内定

神道の学びと経験を糧として、
地域社会に貢献したいと
思います!



私は中高が仏教校だったため、宗教を身近に感じながら学生生活を送っていました。けれども、日本古来の神道について、ほとんど知らないことに気がついたのです。神道をぜひとも詳しく学んでみたいと思い、神道文化学部に入學しました。

「大学生活の4年間で、出来る限り多くのことを学び、経験を積もう」。そう決心して、祭式サークル「瑞玉會」に入会し、祭式作法だけでなく、雅楽や舞・衣紋など、神社ご奉仕に関わるすべてのスキルを学びました。また、学部行事には積極的に参加し、観月祭では浦安の舞の舞姫を務めました。学年やサークルを超えて、協力して一つのものを作っていき「やりがいと達成感」は、神道文化学部ならではの経験だと思います。

学部の学修では、2年次の笹生衛先生「宗教考古学」の授業を通じて、古墳祭祀から律令祭祀への変遷に興味を惹かれるようになりました。3年次以降の基幹演習では、笹生先生のゼミに入りました。学界の第一線で活躍している笹生先生から、最先端の研究成果をリアルタイムで学ぶことができました。学部卒業後は、さらに学びを深めたいと思い、大学院へ進学し、律令祭祀の儀式次第や展開について研究を深めました。コロナ禍で制限があった部分もありますが、出来る範囲からでも研究を進めていく大切さを痛感した2年間でした。

大学院で学び、また神社で助勤のお手伝いを続ける中で、こう考えるようになりました。「神道の学びを、地域の活性化のために、ぜひ活かしたい」そんな思いから、地方公務員を目指して就職活動に取り組みました。学部生の中に学芸員の資格も取得していたこともあり、「学芸員有資格者」の枠で、市役所から内定をいただくことができました。これからは学部での学びを活かして、地域社会に貢献していきたいと願っています。

思えば、数多くの経験と様々な思い出に満ち溢れた大学生活でした。学部での様々な経験があったからこそ、新たな進路を決断することができたと思います。志願者の皆さん、神道文化学部への進学を、心からお薦めします!

松本さんはこんな学生でした!



松本さんは、学部から大学院まで指導させてもらいました。学部時代のクラブ活動(瑞玉會)から大学院での研究活動まで、何事にも積極的に誠実に打ち込んでいました。社会に出てからは、地域の文化を守り継承し、文化振興を担うお仕事に就かれるようかかっています。松本さんの誠実さが存分に活かせることと思います。ご活躍を心から期待しております。

ゼミ担当 笹生 衛教授

神道文化学部独自の各種講座 神道文化学部では、就職・奉職、および就職・奉職の「その先」を見据え、素養とスキルを高めるための各種講座を開催しています。(無料)



オープンキャンパス (渋谷キャンパス) 8月5日(土)・6日(日)・26日(土) お問い合わせ: 入学課 電話 03-5466-0141

※学年は取材時のものです

神道文化学部の就職力!



齊藤ゆいかさん制作「八咫鳥飛来!」(神道文化学部学生)

もっと日本を。もっと世界へ。

神道文化学部から神職へ



かずな
廣田 万奈さん
神道文化学部 4年

奉職内定

本に囲まれたキャンパス、
厳かな祭典行事…。
様々なことを楽しみにして
入学しました



「神職になる」という目標を持って地方から上京し、4年が経ちました。日本文化や神社が好きで、高校生から地元で巫女として奉仕。「神職資格を取得できる大学がある」と知ってからは、行動が早かったように思います。



本に囲まれたキャンパス、充実した図書館や博物館、厳かな学部行事の数々…。様々なことを楽しみにして入学しました。私のような一般家庭出身者も、実家が神社である社家の学生も、同じ志を持つ仲間と勉学に励む環境のもと、自身を成長させることができました。私は小学生から日本舞踊を続けている関係で舞に興味を持ち、神楽舞サークル「みすゞ会」へ入会。舞の奉納を通してたくさん神社を知りました。



大学生活で最も印象に残っているのは、良くも悪くもコロナウイルスです。相次ぐ行事の中止、サークル活動も中止。約2年間もリモート授業が続くなど、誰が想像できたでしょうか。1人でパソコンと向き合う日々は、今思い返しても苦しいものでした。だからこそ、「人」との関わり大切さを痛感し、普段の生活がいかに多くの人に支えられ、恵まれていたものであったかがわかりました。



3年次から始まったゼミでは、「神話学」と出会いました。神話と舞の関係について研究しています。世界の神話や神様の、何と幅広いこと。神話は、私たちの生活に直接的に役立つかもしれないかもしれません。しかし、その背景や歴史を探索すると、現代人でも、だからこそ参考になることも多いのです。



本に触れ、神道を学び、日本を知る國學院大學での学びは、今後の人生の大きな礎になると確信しています。卒業後は、ご縁あって神職として奉職が決まりました。本学の名に恥じぬよう、素直に謙虚に歩んでいこうと願っています。



廣田さんは
こんなゼミ生！

日本舞踊と神話の関係を研究した廣田さんのおかげで、私も他のゼミ生たちも舞踊に詳しくなりました(少しだけですが)。

ゼミ担当 平藤 喜久子 教授

先生からのメッセージ



平藤 喜久子教授
「神話学」

神話学を学ぼう！



私の専門は、神話学です。神話というと誰でも知っている言葉ですが、その神話を専門的に学ぶ神話学となると、専門とする研究者も少なく、学べる大学は多くはありません。神道文化学部では、神道だけではなくさまざまな宗教文化を広く学ぶことができることを特徴としており、そのなかには神話学も含まれています。



神話は、人類の歴史とともに存在したとされる物語です。この世界はどのようにして造られたのか、人間はどのようにして誕生し、なぜ死ななければならないのか。これらは人類がつねに抱えてきた問いでしょう。その問いに答えようとする思いは、神話を生み、科学も発展させてきました。神話について考えることは、神話を必要とした人間について考えることだと思って



います。私は、さまざまな神話を比較したり対照させたりしながら、人間について、文化について考える学問が神話学だと考えています。



神話は、古い文献に残されている場合が多いので、とっつきにくく、難しそうに思われるかも知れません。日本神話も『古事記』や『日本書紀』を読むのは簡単とはいえません。しかし、手軽に手に取ることでできる現代語訳から学び始めることもできます。ギリシャ神話や北欧神話もたくさんの日本語訳があります。

まずは神話の世界に触れ、人間が生みだしてきた文化遺産の面白さを感じてみませんか？



平藤先生は
こんな先生！

世界の神話に造詣が深い先生です。学生の興味や関心を尊重し、神話研究の道へと優しく導いてくださいました。

ゼミ生 廣田 万奈さん



神道文化学部から一般企業へ



こうすけ
林 晃佑さん
神道文化学部 4年

一部上場企業内定

「神道文化学部生だからこそ、「話題の引き出し」が他の学生より1つ多い！」
そう考えて、就活に前向きで
取り組むことができました



私はもともと神社とは無縁の高校生でした。そんな私が、神道文化学部に進学した理由は、高校時代、オーストラリアでホームステイをしたことがきっかけです。異国の宗教文化に実際に触れてみて、日本とは全く異なる宗教文化に驚き、関心を抱きました。

それと同時に、自国の文化について全くの無知であることにも気づき、日本の宗教文化を見つめ直したいという思いが強くなりました。その経験から、大学受験に際して、日本の宗教文化の根幹にある神道を学べるほか、世界のさまざまな宗教文化も幅広く学ぶことができる神道文化学部に進学することを決意したのです。



神道文化学部は、神職の奉職を志す学生が多く進学しますが、私のように日本や世界の宗教文化に興味を持って進学してくる学生もたくさんいます。入学後すぐアイスブレイクがあり、自分と同じ興味関心を持つ仲間に出会える機会が用意されていました。4年間、日々の授業で助け合いながら、宗教文化の知識を深めていくことができました。



私が最も印象に残っている授業は、3年次から始まる基幹演習(ゼミ)です。私は、身近な宗教文化であるお墓や供養塔などの石造遺物について研究しました。このテーマを選んだきっかけは、お墓をよく見ると、造られた年代、形、大きさなどの特徴がひとつひとつ異なることに、何か隠された意味があるのではないかと思ったからです。

お墓の特徴を分類し、傾向を分析することで、そのお墓を造った時代の人々が大切にしたいものを明らかにしようと、研究に没頭しました。演習は、自らの疑問にとことん向き合える貴重な経験であり、これから社会に出て仕事をする上でも役に立つスキルを学ぶことができました。



私は、入学当初から一般企業への就職を考えていたこともあり、早い段階から準備を進めていました。神道文化学部生ということが或いは弱点になるのではないかと若干の不安を抱えていましたが、3年次になっていざ就職活動を始めてみると、神道文化学部だからと言って不利になることは、全くありませんでした。

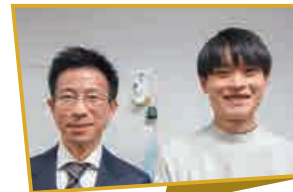


むしろ「神道文化学部というユニークな学部だからこそ、話題の引き出しが他の学生より1つ多い！」と考え、前向きで就活に挑むことができました。その結果、第1志望の企業から内定をいただくことができました。内定先は、人々の日常生活を支えつつ、環境保護を大切にしている企業です。

私は、神道文化学部に入學して、自分が本当に学びたい学問に向けて、大学4年間という大切な時間をかけることができました。本当に良かったと実感しています。



後輩の皆さんに伝えたいこと。それは、将来の選択肢は、自分次第で、いくらでも切り拓いていくことができるということです。皆さんのご活躍を、心より応援しています！



**林さんは
こんなゼミ生！**

林さんは、他の学生の発表内容や周囲のコメントを自分のこととして受け止め、それを自身の研究にフィードバックさせていました。その優れた観察力と対応力は、就職活動にも生きていたのではないかと思います。今後の活躍を信じて疑いません。

ゼミ担当 柏木 亨介 助教

先生からのメッセージ



柏木 亨介助教
「民俗学」「文化人類学」

日本列島の多様な祭礼文化を、
一緒にリサーチしよう！



私は民俗学的な視点から神社や祭祀について研究しています。例えば、農家の方が田んぼで田の神を祀って豊作を祈願したり、屋敷に氏神様を祀って家の繁栄を祈願したりするといった、民間の祭祀に着目しています。これらは統一された祭式や祭日ではなく、農耕の折り目や生活の節目に際して、先代から伝えられたかたちで、自分たちの手で祭りを行っています。日本列島の多様な自然環境のなかで暮らしてきた人々によって生まれ、伝えられてきた、大切な文化です。



そもそも人が生きていくにあたっては、周囲の自然環境を利用して食物をはじめ何らかの資源を得なくてはなりません。それには人々との協働、すなわち社会が必要です。しかし、私たちが豊かな暮らしを送ろうとすればするほど、社会は高度化、複雑化し、今では社会を生き抜くための知恵や技術が必要となってまいりました。



人は人との関係に悩み続けることになり、そこから倫理や道徳、宗教といった叡智が生じます。社会の諸課題は人々が作り出したものです。その解決に科学技術を用いるにしても、具体的にいつ、どこに用いればよいか分からないといけませんから、その根本的な解決には人の思考と行動パターンの正確な把握が必要

でしょう。民間祭祀の私的で伝承的な性質は、以上の課題を考えるうえで重要な論点なのです。



私のゼミでは卒業後のキャリアを見据えた指導を行っています。まず、研究書を精読して学術研究としてのものの見方や考え方を把握するとともに、先行研究では見落とされてきた諸問題について議論します。そして、各自が設定した研究テーマに関するデータを実地において収集し、レポートにまとめていきます。つまり前例の知見と課題を把握し、関連のデータを収集し、データ間の相関関係などを分析し、論理的説明を与えます。



大学では「何を」学ぶことも大切ですが、「どのように」学ぶことも同じくらい大切です。一緒に考えていきましょう！



**柏木先生は
こんな先生！**

柏木先生は、学生に寄り添った指導をしてくださる素敵な先生です。調査・研究に取り組む中で、先生のご経験や幅広い知識に基づく、たくさんの貴重な助言を頂戴しました。

ゼミ生 林 晃佑さん



神道文化学部から一般企業へ



てるき
小倉 輝生さん
神道文化学部 4年

一部上場企業内定

学部の
ユニークな学びを活かして、
借り物ではないアピールが
できました



高校時代は、サッカーひと筋でした。神道文化学部のことは、進路を決めていく中で、はじめて知りました。我が国の伝統文化に特化したカリキュラムに心惹かれ、入学を決めました。



学部では、社家出身で神職の道を志す友人が少なくありません。私は社家の出身ではありませんが、一度も肩身の狭い思いをしたことはありませんでした。入学時のアイスブレイクをきっかけに、数多くの友人達と出会うことができました。またサッカーサークルの代表としても活動し、学生生活を謳歌しました。3年次からの演習では、「宗教と死」が研究テーマでした。コロナ禍や戦争で、「死」を身近に感ずることが多い中、あらためて「命の尊さ」を自分なりに見詰め直すことができましたと思います。



学部の多くの友人たちが神職を目指す中で、私は一般企業への就職を志望しました。どの企業の面接でも、必ずといっていいほど、こんな質問をいただきました。



「神道文化学部はどのような学部なのですか？」「なぜ神道文化学部で学んだ学生が、わが社を志望するのですか？」



自分がなぜこの学部に入ったのか、学部でなにを学んだのか、学んだことを今後どう活かすのか…そういったことを、自分の言葉で、しっかりと語ることを心掛けました。学部のユニークな学びと経験を、自分の「強み」として活かすことで、借り物ではないアピールができたと思います。

おかげさまで第一志望だった企業から、無事内定をいただくことができました。卒業を前にした今、この学部に入學して本当によかったと実感しています。



幼少期からサッカーを通して厳しい環境に置かれることが多かった私は、この学部に入學することによって、自身の強みをさらに鍛え上げ、新しいことに挑戦する勇気を振るい起こすことができました。



志願者の皆さん、自分ならではの長所に目覚めましょう！ 自らの道を力強く切り開いていきましょう！ 応援しています！



小倉さんは
こんなゼミ生！

小倉さんは、ゼミで異文化における死生観という大事なテーマについて意欲的に取り組み、積極的に自分の視野を世界へ向けて広げた学生でした。卒業後の活躍を心から期待しています。

ゼミ担当 エリック・シッケタンツ 准教授

先生からのメッセージ



エリック・シッケタンツ
准教授

「宗教と政治の関係」
「近代中国宗教」
「近代日本宗教」

世界の多様な宗教文化を
探検してみませんか？



私の出身地は、ドイツ西部のベルギーやオランダ国境に近いアーヘンです。中世神聖ローマ帝国の皇帝たちが戴冠した地です。ケルン大学で日本のことについて研究をはじめ、そのあと、ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)で研鑽を重ねました。



私は、近代における日中宗教関係をさまざまな面で考察しています。以前は、この問題に近代日中仏教交流という側面から取り掛かり、近年は、日中戦争期中国北部における対日協力と宗教との関係について調べています。

近代は多くの場合、世俗化による宗教の弱体化の時代として考えられています。しかし、この観点は宗教が近現代においてもさまざまな形で私たちが生きている現実を形作っているという事実を見逃してしまう危険があります。私の研究は、近代史の中でも、こうした宗教の影響力の存続に目を配っています。



「学び」は事実を覚えるだけではなく、批判的な考察力を身につけることもたいへん重要だと思います。物事を立体的に考え、その背景にある意図や構造を把握するためには、文面の裏を読み解く能力が必要です。そのため、私は学生との対話や論文・資料の分析を授業の主要構成要素としています。



グローバル化の中で世界情勢を理解するためには、つねに幅広い関心がとても重要だと思います。ディテールであふれている専門的な知識ももちろん不可欠ですが、物事をクリエイティブに考えるためには、新しい刺激や観点を見つけることによって、積極的に視野を広げる必要があります。

そのため、私は授業の中でも、こうした現象の幅広さを意識して、専門分野だけではなく、世界中のさまざまな事情に目を配ろうとしています。



志願者の皆さん、好奇心を持って世界の多様な宗教文化を探検してみませんか？



エリック先生は
こんな先生！

エリック先生は、ご専門の宗教文化を中心に、グローバルで幅広い知見をお持ちです。いつも懇切にアドバイスしてくださる親身で優しい先生でした。

ゼミ生 小倉 輝生さん